

カリキュラムとGraduation Policy(GP)との相互依存関係一覧表

記入者名	
記入年月日	2006年4月1日
学部・研究科名	教育学部
学科・専攻等名	学校教育教員養成課程
コース等名	教科教育コース・数学教育選修

教育学部の教育目的(具体的に記述・簡条書き)		学校教育教員養成課程の教育目的(具体的に記述・簡条書き)				教科教育コース・数学教育選修の教育目的					
学校教育および社会のさまざまな分野において教育の素養をもって貢献できる人材の養成を目的とする。		子どもを愛し教育および教職に対する責務を深く自覚することを基礎として、児童・生徒の生活指導から教科指導に渡る幅広い能力を持った人材を養成する。									
学校教育教員養成課程教科教育コース・数学教育選修のカリキュラム		学校教育教員養成課程のGraduation Policy(GP) (◎=GP達成のために、特に重要な事項、○=GP達成のために、重要な事項、△=GP達成のために、望ましい事項)				教科教育コース・数学教育選修のGraduation Policy(GP) (◎=GP達成のために、特に重要な事項、○=GP達成のために、重要な事項、△=GP達成のために、望ましい事項)					
授業科目名	授業科目の主題(簡条書) (この授業科目における中心となる 題目・問題・テーマ等を簡条書に記 入する。)	授業科目の到達目標(簡条書) (この授業科目の学習後に到達すべき 最低限の(行動)目標を学生が主語で 行為動詞を使用して簡条書に記入す る。)	S1. 教育理念理解力・教 職展望力: 教育の理念 や制度、教職の意義を理 解し、広い視野から自 己の将来のあり方を展 望することができる。	S2. 教育方法・技術力・指導 力: 幼児・児童・生徒の心 身の発達段階や教科の特 質、教育方法・技術の基礎 を理解修得し、発達段階に 応じた指導をすることができる。	S3. 生活指導力: 道徳・ 特別活動・生徒指導に関す る教育方法を修得し、幼児・ 児童・生徒の生活全般に渡 る指導を行うことができる。	S4. 教育実践力: 教育 現場における指導全般 を実践的に理解・体得 し、現場での適切な指 導を行うことができる。	M1. 代数学の基礎的概念 を習得し、算数・数学の教育 の場での適切な指導をする ことができる。	M2. 幾何学の基礎的概念 を習得し、算数・数学の教育 の場での適切な指導をする ことができる。	M3. 解析学の基礎的概念 を習得し、算数・数学の教育 の場での適切な指導をする ことができる。	M4. 情報数学の基礎的概念 を習得し、算数・数学の教 育の場での適切な指導をす ることができる。	M5. 数学指導の基礎的な 知識と能力を習得し、 学校現場で適切にそれ を活用することができる。
学部共通科目											
総合演習	人類に共通する課題や日本社会に関わる 課題について学ぶ。	1. 人類や日本社会の課題を理解し、説明で きる。 2. 上記の課題を分析・検討し、自分 の意見を持つことができる。 3. 上記の課題についての自分の意見を相手 に応じて分かりやすい形で伝えることので きる。	1. ◎ 2. ◎	3. ◎							
教職に関する科目(小・中)											
教職概論	1. 教職の意義や魅力、求められる資質、 能力などについて理解する。2. 教職への 意欲、志向、使命感などを育む。	1. 教職の意義や基礎知識について理解し、 説明できる。 2. 教職への意欲や積極的な構えを持つこ とができる。 3. 教職に就くための4年間の学習計画を立 てることのできる。	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎	1. △	1. △	1. △					
教育原論	1. 教育を成り立たせる原則 2. 教育の理念・目標とそれを支える思想 の歴史的展開	1. 教育の理念、目標、思想、歴史について 説明できる。 2. 授業で取り上げた問題について自分の意 見を述べることのできる。 3. 教育について系統的に考えようとするこ とができる。	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎								
教育哲学	1. 教育哲学の学問的性格 2. シュブランガーの生涯と教育哲 学 3. シュタイナーの教育哲学とシュ タイナー学校の教育	1. 教育哲学の学問的性格が理解でき る 2. シュブランガーの生涯と教育哲学 が理解できる 3. シュタイナーの教育哲学とシュ タイナー学校の教育の特色が理解できる	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎								
教育史	1. 日本の教育の理念・思想の歴史 的展開 2. 日本の教育の歴史的な性格	1. 日本の教育の理念・思想の歴史的展開に ついて説明できる。 2. 授業で取り上げた問題について自分の意 見を述べることのできる。 3. 日本の教育の歴史的な性格について説明 することのできる。	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎								
発達心理学	1. 人間の発達の原理・要因につい て理解を深める。 2. 発達段階及びその発達課題につ いて学習する。 3. 学校・家庭・地域など身近な場 面での生涯発達として捉える。	1. 自己の理解の上に立ち、発達心理 学的知識を確実に吸収する。 2. 知識やデータを主体的に受け入 れ、自ら考え、判断できる。 3. 日常生活に密接した興味・関心 のある内容に意欲的に取り組む。 4. 心理学的研究の方法や分析など基 本的な手法について理解できる。 5. 心理学を科学として位置づけるこ とができる。	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎ 5. ◎								

教育心理学	1. 学校における教育活動において子どもをどのようにとらえるべきかを概観する。 2. 児童・生徒の発達と学習の原理、個性の理解、さらに障害児生徒の心理、教育評価についてデータに基づいて説明する。 3. いろいろな指導法や心理療法について概説する。	1. 子どもへの援助的な指導のあり方について理解できる。 2. 児童・生徒の発達と学習の原理、個性の理解、さらに障害児生徒の心理、教育評価における理論について、データに基づいた見方ができる。 3. いろいろな子どもに沿った指導法や心理療法があることを理解できる。	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎	1. ○ 3. ○							
教育社会学	本講義では、準拠集団における子どもの社会的発達(=社会化)について理論的・実証的に理解するとともに、教育社会学的研究の基礎をつくる。	1. 社会化概念について説明できる。 2. 子どもの発達に対する準拠集団の実態・課題について説明できる。 3. 講義中で触れた領域について自分の意見を論理的に展開できる。 4. 現代社会における「子ども・教育」問題を指摘できる。またその出現・解決のメカニズムについて自分なりに解決しようとする意志を示す。	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎								
教育制度	1. 学校教育には様々な「制度」、「仕組み」が存在している。それらについて、テキスト、ビデオ、配付資料をベースに解説を加えていく。 2. 基本的に講義形式の授業だが、適宜意見を求めることがある。	1. 学校教育を中心とする教育制度の概要が理解できている。 2. 教育制度の特徴や課題について自ら具体例をあげながら論じることができる。	1. ◎ 2. ◎								
教育法規	1. 教育法規を初めて学ぶ者を対象に、現行教育法規の要点をできるだけ分かりやすく解説する。	1. 現行教育法規の要点が理解できている。 2. 主要な教育法規について、法規定の文言、その意図するところを把握できている。	1. ◎ 2. ◎								
社会教育	1. 生涯学習の観点から社会教育を方向づけるとともに、社会教育の各分野の基本的事項と課題について説明する。	1. 生涯学習のわらい、キー概念などの基本的事項について理解できる。 2. 社会教育の各分野の概要と課題について理解できる。	1. ◎ 2. ◎								
国際理解教育概説	1. 国際理解および国際理解教育の必要性、基本概念、範囲について理解する。 2. 各自の専門教科での国際理解教育の取り入れ方や実践方法について考える。 3. 現在の日本の学校教育における国際理解教育との関連性を政策面および実践面から理解する。	1. 国際理解および国際理解教育の必要性や概念と歴史的展開について理解し、説明することができる。 2. 国際理解教育の実践事例を自身の専門性と関連付けて考察することができる。 3. 日本の学校教育と国際理解教育の関連性を理解し、説明することができる。	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎	2. ◎ 3. ○							
教育方法学	1. 授業の基本原則 2. 主体的な学びの成立と指導 3. 教育課程の編成	1. 授業が持つ4つの基本的性格について理解し、説明できる。 2. 児童・生徒の主体的な学びを呼び起こす指導の諸技術について説明できる。 3. 教育課程の編成原理と方法について説明できる。	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎								
教育メディア論(教育課程、情報機器及び教材を含む。)	教授・学習過程(授業)において、「わかる」、「楽しい」授業をめざしたさまざまな教材教具としての教育メディアの意義や役割、効果について学修する。さらにパソコン、インターネットなどによる多様化した今日の授業形態について考察し、教育メディアを効果的に活用した授業設計・実施・評価について学修する。	1. メディアを利用した授業の特徴を理解できる。 2. 論理的、批判的な思考力と判断力について学び実践できる。 3. メディアを利用した教材の開発ができる。 4. 自発的、独創的に取り組む姿勢もてる。 5. メディアを利用したプレゼンテーション実践を通して、その計画・実施・評価ができる。	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎ 5. ◎								
道徳教育	1. 道徳の語源と意味 2. 西欧の道徳観の変遷 3. 道徳教育の目的・内容・方法	1. 道徳の語源と意味について理解できる。 2. 西欧における道徳観の変遷について、哲学的、歴史的な観点から理解できる。 3. 道徳教育の目的・内容・方法について理解できる。	1. ◎ 2. ◎	3. ◎							
特別活動	1. 特別活動の目標と内容 2. 学級指導の基本原則と方法 3. 特別活動の指導計画	1. 特別活動の目標と内容について理解し、説明できる。 2. 学級活動の指導原則とその方法について説明できる。 3. 特別活動の指導計画作成の基本的観点と構成要素について理解し、指導できる。	2. ○	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎	2. △ 3. △						
生徒指導概論	1. 生徒指導の意義と目的 2. 生徒指導の内容と方法 3. 生徒指導計画	1. 生徒指導の意義と目的について理解し、説明できる。 2. 生徒指導の内容と方法について理解し、説明できる。 3. 生徒指導計画の基本的観点と構成要素について理解し、説明できる。	2. ○	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎	2. △ 3. △						
教育相談・進路指導	1. 生徒指導と教育相談の違いについて説明する 2. 学校における不登校、いじめ、非行などさまざまな問題に対する基本的姿勢について解説する。 3. 臨床心理学のさまざまな技法について解説する。	1. 生徒指導と教育相談の違いについて理解する。 2. 不登校、いじめ、非行などさまざまな問題の原因を理解し、それらに対する基本的姿勢を身につける。 3. 臨床心理学のさまざまな技法について基本的技法を理解する。		1. ◎ 2. ◎ 3. ◎							

<p>事前・事後指導</p>	<p>1. 教育実習前と後に行う指導を通して、高等学校での教育実習の目標の達成をより確かなものとする 2. 教育実習に求められる必要不可欠な基本的・基礎的事項を身につける 3. 教育実習の意義・概要・指導方法についての講義を行う 4. 教育実習で得られた経験から教育実習における問題点の整理し、実習前の教育観、授業観、子ども観との対比から教育や授業に対する課題を認識する</p>	<p>1. 教育実習を行うにあたって必要な基本的事項、教育実習にあたる心構えを身につけ、実行できること 2. 授業記録を作成することができること 3. 授業参観等を通して、教育観、学校観、授業観、子ども観をまとめることができること 4. 授業参観等を通して、自分が行いたい学習指導、生活指導・生徒指導を説明できること 5. 教育実習で得られた経験から教育実習における問題点を整理することができること 6. 教育実習を通して習得した内容をまとめることができること 7. 実習前の教育観、授業観、子ども観との対比から教育や授業に対する課題を認識することができること 8. 教育実習を通して、学習指導、生活指導・生徒指導の観点から自分の変容について説明することができること</p>	<p>3. ○ 7. ○</p>	<p>4. ○ 8. ○</p>	<p>1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎ 5. ◎ 6. ◎ 7. ◎ 8. ◎</p>						
<p>小教職に関する科目(小)</p>											
<p>教科教育法国語</p>	<p>小学校の国語教科書における文学教材の学習指導のあり方について考究する。過去の優れた実践例や現在の指導例を紹介しつつ、今日の文学教育が当面する課題や問題点を検討してゆく。</p>	<p>1. 文学教育の変遷および今日的課題について、概要を説明できる。 2. 文学教育の問題点や今日的課題について、自分の考えをまとめることができる。 3. 文学教育への関心を深め、実際の学習指導の改善に意欲的に取り組むことができる。 4. 多角的な視点から問題点を捉え、考察を加えることができる。 5. 自分の見解を口頭や文章で適切に表現できる。</p>	<p>1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ○ 5. ◎</p>								
<p>教科教育法社会</p>	<p>1. 小学校社会科の教材研究と教材構成 2. 小学校社会科の授業構成</p>	<p>1. 地域調査や教材研究を通して、小学校に対応した学習資料を作成できる。 2. 一定の題材に関する小学校社会科の学習を構想できる。</p>	<p>1. ◎ 2. ◎</p>								
<p>教科教育法算数</p>	<p>1. 小学校算数に関わる基本的な指導内容について解説する。 2. 小学校算数の指導方法に関して解説する。</p>	<p>1. 小学校算数に関わる基本的な指導内容について理解する。 2. 小学校算数の指導方法について基本的な判断ができる。</p>	<p>1. ◎ 2. ◎</p>							<p>1. ◎ 2. ○</p>	
<p>教科教育法理科</p>	<p>小学校理科に関わる科学的事象の中から重要な教材を取り上げ、実験・観察を主体とした授業を行う。</p>	<p>1. 小学校理科教材に関する基礎的知識を理解し、説明できる 2. 小学校理科に関する実験・観察の技能を修得し、結果について適切な分析や評価ができる 3. 自然事象を初め、身の回りの事象に広く興味関心をもつ 4. 理科に関する児童の興味・関心を高める教授法を工夫できる</p>	<p>1. ◎ 2. ◎ 3. ○ 4. ◎</p>		<p>4. ◎</p>						
<p>教科教育法生活</p>	<p>生活科の理念、目標、内容、方法について、わが国の学校教育の歴史と今日的な諸問題とを関連させながら講義する。なお、学校教育現場の教師による講義も後半に含め、生活科の授業計画や具体的指導のノウハウについて学ぶ。</p>	<p>1. 生活科の理念、目標、内容、方法、課題について説明できる。 2. 生活科の指導内容と関連させながら、低学年児童の発達特性について説明できる。 3. 授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。 4. 生活科に対する関心を広げ、問題意識を高めることができる。 5. 日常生活の中で自然や社会と自分とのかかわりについて主体的に考えることができる。 6. 日常生活の中で生活科で身につけた技能を活用し、表現することができる。</p>	<p>1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎ 5. ◎ 6. ◎</p>								
<p>教科教育法音楽</p>	<p>1. 小学校の音楽科の実践に必要な、音楽科の役割・音楽的発達・音楽科の目標・評価などの知識や学習理論について教授する。 2. 実践に向けて、学習計画・学習指導案について教授し、実際に教材研究を行って学習指導案を作成し、その模擬授業を通して授業研究を行う。</p>	<p>1. 小学校音楽科に関する知識や学習理論を習得し、それらを音楽科の実践研究に活用することができる。 2. 学習指導案の作成・模擬授業の実践を通して、小学校音楽科の内容・方法について研究することができる。</p>	<p>1. ◎ 2. ◎</p>								
<p>教科教育法図画工作</p>	<p>本授業は性格上、以下の2側面を持つ。 (1)美術科教育学の基礎。就学全教育・初等教育・中等教育を通しての普通教育における美術教育の基礎的必須事項の習得。「美術科教育学Ⅰ～Ⅳ」の基礎。(2)初等教育段階での美術教育の意義・歴史・目的・内容・方法・対象・制度等の理解。小学校免許取得のための教職専門科目。</p>	<p>1. 普通教育における美術教育の基礎的必須事項即ち初等教育段階での美術教育の意義・歴史・目的・内容・方法・対象・制度等を理解する。</p>	<p>1. ○</p>	<p>1. ◎</p>							

教科教育法体育	1. 小学校における体育科の教育内容・方法について学習する。 2. 授業は体育領域（海野）と保健領域（友定）に分け実施する。そのため2グループ編成で、6～7回で担当を交代する。	1. 小学校体育科の体育領域および保健領域について、その教育目標、教科内容・教材づくり、教育方法等に関する基礎的事項を理解する。	◎							
教科教育法家庭	1. 小学校学習指導要領「家庭科」の歴史の変遷について 2. 現行小学校家庭科の目標、内容・指導方法・評価について 3. 家庭科の独自性について 4. 授業設計の基本的観点について 5. 指導案の作成	1. 小学校学習指導要領の変遷を理解する。 2. 家族や人と関わる意味やよさについて説明できる。 3. 実習における安全、衛生を説明できる。 4. 家庭科の教材と「よりよい家庭生活」形成の関連について理解する 5. 「よりよい家庭生活」形成に向けて自らが実践しようとする。 6. 小学校家庭科の基本的な事項について理解する。 7. 授業を組み立てる際の基本的な観点について理解する。 8. 児童の生活実態をふまえ、児童が興味・関心・意欲をもって取り組める指導案を作成できる	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎ 5. ◎ 6. ◎ 7. ◎ 8. ◎							
教育実習(初等)I	幼稚園教諭免許・小学校教諭免許のための基本および応用実習	1. 小学校・幼稚園における全般的な教育活動を体得する。 2. 児童に対する理解を深める。 3. 教育指導技術を修得する。	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎	1. ○		1. ◎ 2. ◎ 3. ◎				
教育実習(初等)II	幼稚園教諭免許・小学校教諭免許のための基本または応用実習	1. 小学校・幼稚園における全般的な教育活動を体得する。 2. 児童に対する理解を深める。 3. 教育指導技術を修得する。	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎	1. ○		1. ◎ 2. ◎ 3. ◎				
教職に関する科目(中)										
数学科教育法I	1. 中等教育数学科の基本的枠組み。 2. 中等教育数学科の内容の概説。 3. 今日の教育状況における数学教育の課題。	1. 中等学校数学科の構成を理解する。 2. 中等学校数学科の内容の概要を理解する。 3. 数学教育の今日的課題に関心をもつ。								1. ◎ 2. ◎ 3. ◎
数学科教育法II	1. 中等教育数学科における指導の重点の検討。 2. 指導内容の背景にある数学及び数学的見方・考え方の検討。 3. 中等教育数学の教材としてさまざまな事象を具体化。	1. 中等教育数学科における指導の重点を理解する。 2. 指導内容の背景にある数学及び数学的見方・考え方を指摘できる。 3. 中等教育数学の教材を自分なりに開発できる								1. ◎ 2. ◎ 3. ◎
数学科教育法III	1. 中等教育数学科の学習指導の方法や指導計画の構成を考える。 2. マイクロティーチングの実施。 3. 学習指導を立案・実践・評価するための基本的な能力を養う。	1. 中等教育数学科の学習指導案を作成できる。 2. 学習指導の実践・評価を単純な場合において遂行することができる。								1. ◎ 2. ◎
数学科教育法IV	1. 中等教育数学科の実践的研究の背景にある歴史や理論の概説。 2. 中等教育数学科について、社会的、国際的に広い視野を養う。	1. 中等教育数学科の実践的研究の背景にある歴史や理論について理解する。 2. 中等教育数学科を社会的、国際的視野から考えることができる。								1. ◎ 2. ◎
教育実習(中)	中学校教諭免許・高等学校教諭免許のための基本および応用実習	1. 中学校・高等学校における全般的な教育活動を体得する。 2. 生徒に対する理解を深める。 3. 教育指導技術を修得する。	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎	1. ○		1. ◎ 2. ◎ 3. ◎				
教育実習(高)	中学校教諭免許・高等学校教諭免許のための基本または応用実習	1. 中学校・高等学校における全般的な教育活動を体得する。 2. 生徒に対する理解を深める。 3. 教育指導技術を修得する。	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎	1. ○		1. ◎ 2. ◎ 3. ◎				
教科または教職に関する科目										
介護等体験実習	養護学校及び社会福祉関係の諸施設において、合わせて7日間、介護等の体験を行う。	個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深め、教員としての資質を向上させる。	○			◎				
国際理解教育論	1. 国際理解教育とは何かを理解する。 2. 国際理解教育の扱う分野についての知識を広げる。 3. 国際理解教育を学校教育で行う際の計画をたてる。	1. 国際理解教育の理念と歴史を理解する。 2. 地球的な課題について知識を深め、理解する。 3. 地球的な課題についての自分の意見を持てる。 4. 学校で実践する際にどのような内容にすればよいかを考え、判断できる。 5. 学んだことを自分の関心のある題材に応用することができる。 6. 複雑な国際問題を理解しようとする。 7. 批判的に考えることができる。 8. 自分の意見を論理的に発表できる	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎ 5. ◎ 6. ◎ 7. ◎	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎ 5. ◎ 6. ◎ 7. ◎						
教科に関する科目(小学校専門科目)										

初等科国語	本授業ではまず、言語と人間の関係及び国語学力の内実について、考案し、次いで小学校国語科授業を構想する基礎となる教材分析の視点ちお方法について具体的な説明を試みる。	1. 言語の機能について説明できる。 2. 小学校国語科の「内容」の得失について説明できる。 3. 教材を多角的に検討し、指導すべき内容を的確に抽出できる。 4. 言語の役割や動きに高い関心を持つ。 5. 積極的に教材開発分析に取り組むことが出来る。 6. 小学校国語科の「内容」について問題意識を持って考えることができる。 7. 考察した結果や問題点を文章で適切に表現できる。 8. 文学教材の授業改革はどうあるべきなのかについて理解する。 9. 改革の視点を考えることができる。 10. 授業改革について関心を示すことができる。 11. まじめに取り組むことができる。	1. ○ 2. ○ 3. ◎ 4. ○ 5. ◎ 6. ◎ 7. ○ 8. ◎ 9. ◎ 10. ◎							
初等科社会	小学校社会科の題材として取り上げられている内容について、それぞれの専門的視座から問題構造の概要を概説し、教材開発への方向性を示唆する。	1. 小学校社会科の題材として取り上げられている内容について、歴史学、地理学、法学、社会学、哲学倫理学のそれぞれの立場から基礎的な理解を深める。 2. 小学校社会科教材分析の視点と方法を習得する。	1. ◎ 2. ◎							
初等科数学	1. 学校教育の範囲で扱えるさまざまな数学的問題に自ら取り組む。 2. 数学的見方・考え方、数学の面白さ、数学の価値等について考察する。	1. 学校教育で扱えるさまざまな数学に理解を示すことができる。 2. 数学的見方・考え方、数学の面白さ、数学の価値等について具体的に指摘することができる。	1. ◎ 2. ◎							
初等科理科	1(前半)受講者全員に対して、理科教育の歴史、教授方法、教材研究等について、池田が講義する。 2(後半)小学校理科における学習内容およびその背景となる基礎を、物理化学分野と、生物地学分野に分けて講義する。	1. 小学校理科に関する教材を科学的に理解する 2. 自然現象に興味関心をもつ 3. 小学校理科の教材研究ができる	1. ◎ 2. ○ 3. ◎	3.○						
初等科生活	1. 小学校低学年の生活科授業を運営して行く上で必要な栽培、飼育、表現等の知識、技能の修得を目指す。	1. 生活科授業運営に必要な知識、技能を獲得する。 2. 体験型授業の基本を理解し、構想できる。	1. ◎ 2. ◎							
初等科音楽	小学校における音楽科の教育実践に必要な音楽の専門的な知識や技術について指導する。	1. 音楽に関する知識や理論が身についている。 2. 意欲的に音楽活動に参加し、創造的に音楽を表現することができる。 3. 積極的に音楽的技術の習得に取り組み、音楽表現に生かそうとすることができる。	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎							
小学校歌唱伴奏法	ピアノ演奏の基礎と、その発展した形として、簡易伴奏法及び弾き歌いを学習する。	1. 平易なピアノ曲を、中断せずに最後まで演奏することができる。 2. 小学校の歌唱教材の弾き歌いができる。	1. ◎ 2. ◎							
初等科図画工作	小学校の図画工作科の授業をするうえで必要な美術の基礎的技術、知識を習得する。平面造形、立体造形、鑑賞の3つの分野を学習する。	1. 小学校の図画工作科における題材を理解し、表現技術と理解のための知識を習得する。 2. また、美的感覚を練磨する。	1. ◎ 2. ◎							
初等科体育	1. 小学校体育における各種の運動教材のうち、実技を通した学習として体操・器械運動とタグフットボールを学習する。 2. なお、実技は2班に分かれ、体操・器械運動とタグフットボールを途中交替してそれぞれ7回ずつ行う。	1. 体操・器械運動とタグフットボールに関する知識およびルールの正確な理解 2. 講義に真摯に取り組む態度 3. 体操・器械運動とタグフットボールの実習および指導	1. ◎ 3. ◎							
初等科家庭	小学校で、家庭科を指導するために必要な基礎知識を学習する。食物・被服・住居・家族の4領域について学ぶ。	1. 家庭科教育の各領域における基本的な知識を獲得する 2. 各領域の専門的事項を教育に活用することについての判断ができる 3. 専門的内容の理解に基づいて、家庭科教育に対する関心と意欲を高める	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎							
教科に関する科目(中学校専門科目)										
代数学I	1. 数学における基礎的分野である線形代数を解説し、行列、ベクトルの演算の計算能力を養う。 2. 掃き出し法を身に付けさせ、連立方程式や行列式などの計算能力を養う。	1. 行列やベクトルの演算の計算が遂行できる。 2. 連立方程式を解くことができる。 3. 行列式を計算することができる。							1. ◎ 2. ◎ 3. ◎	
代数学II	1. 代数学Iを取得していることを前提にして、代数学IIに引き続き線形空間の基礎理論を解説する。 2. 線形写像の概念を理解させる。	1. 数ベクトル空間・線形空間の基底や次元を計算することができる。 2. 線形写像の表現行列を求めることができ、その核や像などの線形空間を計算することができる。 3. 線形代数の基礎理論を応用することができる。							1. ◎ 2. ◎	
代数学III	1. 代数学の基本理論である初等整数論の入門を解説する。	1. 互除法の計算ができる。 2. 合同式の計算ができる。 3. 初等整数論の基礎理論を応用することができる。							1. ○ 2. ○	

代数学Ⅳ	1. 代数学の基本理論から話題を選び、その入門を解説する。	1. 代数学の基本的な計算ができる。 2. 代数学の基本的な事柄を論じることができる。					1. ◎ 2. ○				
計算機数学Ⅱ	1. 代数学Ⅰの内容を理解していることを前提に、情報理論に必要な代数学の基礎について講義を行う。	1. 情報数学に現れる基本的な数学を理解できる。					1. ○				
数学講究Ⅰ	1. 集合論Ⅰの履修を前提に、代数学に関連するテキストの中から適切なテーマを選び、セミナー形式で授業を行う。 2. 受講生にテキストの内容を発表させ、これにより、数学の教員としての表現力と指導法を身に付けさせる。	1. 代数的な見方・考え方を理解し、論理的に説明することができる。 2. 代数学的内容を論理的に表現することができ、効果的に発表することができる。					1. ◎ 2. ◎				
幾何学Ⅰ	1. 幾何学体系の原点から、現代数学の根本的原理である、公理的論証を学習する。これにより、論証能力を養う。 2. 初等・中等教育では学習しない幾何学があることを認識させる。	1. 幾何学的命題を公理系を用いて論理的に論証することができる。 2. 平行線の公理の重要性を認識することができる。 3. 幾何学の問題を解析学や代数学を応用して解くことができる。 4. 日常生活の中に見られる幾何学的現象を説明することができる。					1. ○ 2. ○ 3. ○ 4. ○				
幾何学Ⅱ	1. 距離空間の基礎的概念を理解させる。 2. 位相空間における基礎的概念を理解させる。	1. 距離関数を用いて、開集合や閉集合などの基礎的な事柄を論じることができる。 2. 具体的な空間から抽象的な空間への抽象化を理解することができる。 3. 日常生活の中にある幾何学的現象を位相幾何的立場から説明することができる。					1. ◎ 2. ○				
幾何学Ⅲ	1. 微分幾何学的な考え方で、図形の性質を理解させる。 2. 位相幾何学的な考え方で、図形の性質を理解させる。 3. これらを応用した幾何学的現象の考察能力を養う。	1. 図形の微分幾何学的な量や位相幾何学的な量を計算することができる。 2. これらを用いて、「形」に対する微分幾何学的、位相幾何学的な考え方を総合的に論じることができる。 3. 日常生活の中にある幾何学的現象を微分幾何学的、位相幾何学的立場から説明することができる。					1. ◎ 2. ○				
幾何学Ⅳ	1. 非ユークリッド幾何や位相幾何学、多様体論などの幾何学の話題からテーマを選び、その基礎理論を理解させる。 2. 代数学や解析学などの他の分野との関連について理解させる。	1. 講義で解説した幾何学の内容を理解し、基本的概念や事項を正しく使うことができる。 2. 代数学や解析学などの他の分野との関連について理解し、それを説明することができる。 3. 日常生活の中にある幾何学的現象を説明することができる。					1. ◎ 2. △				
集合論Ⅰ	1. 現代の数学の基本概念である集合論・離散数学について講義し、これにより、論理的思考、抽象化する能力を修得させる。	1. 論理を正しく理解し、正しい論述をすることができる。 2. 集合についての基本的事項・概念を理解している。 3. 写像についての基本的事項・概念を理解している。 4. 日常生活の中の身近なものを通して、集合や写像の概念を説明することができる。					1. ◎ 2. ○ 3. ◎ 4. △	1. ◎ 2. ○ 3. ◎ 4. △	1. ◎ 2. ○ 3. ◎ 3. ○		
集合論Ⅱ	1. 集合論Ⅰの履修を前提に、集合論・離散数学の中から話題を選び解説する。	1. 離散数学的思考をすることができる。 2. 集合論的思考をすることができる。					1. ○ 2. ○	1. ○ 2. ○	1. ○ 2. ○	1. ○ 2. △	
数学講究Ⅱ	1. 幾何学の講義として、幾何学に関連するテキストの中から適切なテーマを選び、幾何学的内容と考え方を理解させる。 2. 受講生各自にテーマを与え、その内容を発表させ、これにより、数学の教員としての表現力と指導法を身に付けさせる。	1. 教科書に書いてある内容を理解し、論理的に説明することができる。 2. 幾何学的内容を論理的に表現することができ、効果的に発表することができる。					1. ◎ 2. ◎				
解析学Ⅰ	1. 一変数関数の微分積分の理論を理解し、応用する能力を養う。	1. 簡単なイプシロン・デルタ論法をすることができる。 2. 基本的性質に基づいた数列の極限の計算ができる。 3. 連続性や微分可能性を説明することができる。 4. 微分・積分法の基本的性質に基づいた微分・積分の計算ができる。 5. 微分積分に関する基本的な定理を理解し正しく使うことができる。							1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎ 5. ○		
解析学Ⅱ	1. 解析学Ⅰを前提とし、解析学の理論を理解し、応用する能力を養う。	1. 微分・積分などの解析学の計算が正しくできる。 2. 基本的な定理を正しく説明することができ、応用することができる。							1. ◎ 2. ○		
解析学Ⅲ	1. 解析学の基本理論から話題を選び、その入門的内容について解説する。	1. 解析学的基本的な計算が正しくできる。 2. 解析学的基本的な事柄を論じることができる。							1. ◎ 2. ○		
解析学Ⅳ	1. 解析学の基本理論から話題を選び、その入門的内容と応用について解説する。	1. 解析学的基本的な計算が正しくできて、それを応用することができる。 2. 解析学的基本的な事柄を論じることができて、それを応用することができる。							1. ◎ 2. ○		
計算機数学Ⅰ	1. 数式処理システムの基礎理論を解説する。	1. 数式処理システムを実際に用いながら、数学の問題を解く。							1. ○	1. ◎	
数学講究Ⅲ	1. 解析学に関連するテキストの中から適切なテーマを選び、セミナー形式で授業を行う。 2. 受講生にテキストの内容を発表させ、これにより、数学の教員としての表現力と指導法を身に付けさせる。	1. 解析的な見方・考え方を理解し、論理的に説明することができる。 2. 解析学的内容を論理的に表現することができ、効果的に発表することができる。							1. ◎ 2. ◎		

確率・統計学	1. 身の回りに起る現象を数学的に捉え、分析する能力を養う。	1. 確率の概念、基本的理論について理解し、それを応用することができる。 2. 統計学の基本理論を理解し、身の回りの出来事に応用することができる。							1. ◎ 2. ◎		
計算機数学Ⅲ	1. 計算機の基礎学問である論理学が、現代数学ではどの様に構成されているのかを解説し、その応用例として、計算機があることを理解させる。 2. 幾何学と計算機との関連について、身近な図形の数理性を学習する。	1. 身近な図形の数理性について理解することができる。 2. 身近な図形の数理的特長を説明することができる。					1. ○ 2. ○			1. ○ 2. ○	
計算機概論Ⅰ	1. 計算機の基本的な使い方を学ぶ。	1. ノートパソコンの基本的な使い方をすることができる。								1. ◎	
計算機概論Ⅱ	1. 計算機を利用するための基本ソフトであるUNIXの基礎的な利用法を習得する。 2. 数式を含んだ文書を容易に作成することを可能にする文書整形システムLaTeX2εの利用法を習得する。	1. UNIXの利用法を理解することができる。 2. LaTeX2εを用いて文書を作成することができる。 3. C Shellプログラミングにおいて、プログラミングの基本的な思考力を身に付けることができる。 4. UNIXやTeXについて興味を持つことができる。								1. ○ 2. ○ 3. ○	
計算機概論Ⅲ	1. 計算機概論Ⅲに続いて、計算機を利用するための基本ソフトであるUNIXの基礎的な利用法を習得する。 2. 計算機概論Ⅲに続いて、数式を含んだ文書を容易に作成することを可能にする文書整形システムLaTeX2εの利用法を習得する。	1. UNIXの利用法を理解することができる。 2. LaTeX2εを用いて文書を作成することができる。 3. C Shellプログラミングにおいて、プログラミングの基本的な思考力を身に付けることができる。 4. UNIXやTeXについて興味を持つことができる。								1. ○ 2. ○ 3. ○	
グラフ・ネットワーク	1. グラフの基本定義、性質から、通信ネットワークにおける経路決定問題とそのアルゴリズムまで講義する。	1. グラフ・ネットワークの理論、またそれに基づいたネットワーク問題のモデル化とその解決のためのアルゴリズムの設計についての基礎的知識を習得することを目標とする。								1. ○	
卒業研究											
卒業研究	1. 数学・数学教育のさまざまな話題の中からテーマを選択し、それについて資料を集めて検討する。 2. 資料の検討に基づいて、各自の結論を話し合う。 3. 終了時に、研究内容について発表を行う。	1. 数学・数学教育に関するテーマを選択し、それについて資料を集めて調べることができる。 2. 数学・数学教育について自分の意見を話し合うことができる。 3. 自分の研究内容について効果的な発表を行うことができる。					1. ○ 3. ○	1. ◎ 2. ◎ 3. ○	1. ○ 2. ○ 3. ○		1. ◎ 2. ◎ 3. ○
G P 項目別到達度判定方法 (具体的に記述・簡条書き)											
総合的 G P 到達度判定方法 (具体的に記述・簡条書き)											